

事務事業名 市有バス運行事業

政策:06 市民と行政が協働してつくるまちづくり

施策:03 計画的・効率的な行財政運営

部名:総務部

課名:財政課

基本事業:05 市有財産の有効活用

計画年度	平成20年度 ~ 年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市有バス 団体		市有バスの整備、点検を実施し予約を受け付け、公用車として貸し出しをしました。 【貸出手順】 ・担当課から電話で仮予約(6ヵ月前より可能) ・担当課から申請書を提出(10日前まで) ・財政課で許可書を発行、バス運行管理業務委託者へ連絡調整 ・バス運行				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）				
バスの安全及び効率的な運行をして、バス借上げ料削減を図る。		バスの安全及び効率的な運行をして、バス借上げ料削減を図る。				
4 活動指標・成果指標・事業費の推移						
区分	指標名称	単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	受付件数	件	563	608	600	-
活動指標	使用台数	台	709	769	816	-
成果指標	市有バス稼働率	%	73.9	80.1	85	-
成果指標						
事業費		千円	16,828	16,150	16,302	
うち一般財源		千円	16,635	16,038	16,113	
5 目的妥当性						
法定受託事業である（根拠法令） 妥当である 妥当性が低い		有効活用のために使用範囲を広げて使用している状況です。				
6 上位の基本事業への貢献度						
貢献度大きい（理由） 貢献度ふつう（理由） 貢献度小さい（理由） 基礎的事務事業		平日、休日問わず運行している状況です。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討						
対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる 対象や意図の見直しはできない その他		市有バスの使用範囲を精査することにより費用対効果の改善が期待出来ます。				
8 有効性（成果状況）						
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない		平成22年7月から4台の内3台の管理を教育委員会へ移譲するため、教育委員会での成果向上策を図っていただきたい。 1台については、効率的な使用方法を推進する。				
9 有効性（成果向上余地）						
成果向上余地・大 成果向上余地・中 成果向上余地・小・無し						
10 事業の再編成						
類似の事業があり、再編成できる 類似の事業はあるが、再編成できない 類似の事業はない		市有バスの売却を検討及び民間のバスを借上げでの運行方法が考えられます。				
11 効率性（コスト削減の方法）						
ある ない		民間のバスを借上げ、バス利用する受益者より負担を求め、公益性が高いものについては、公費負担(全額または一部)をする方法が考えられます。				